

相模女子大学紀要 第八二号（二〇一八年度）

『菊池惺堂日記』第三冊（昭和五年四月―昭和六年五月）

下田章平

二〇一九年三月一日 発行

『菊池惺堂日記』第三冊（昭和五年四月―昭和六年五月）

下田章平

菊池惺堂（一八六七―一九三五）は、実業家、政治家、南画家、書画碑帖收藏家、蔵書家として活動した人物である。

平成三〇年（二〇一八）九月一日、菊池隆村氏（菊池家当主、惺堂の孫）宅に伺い、惺堂関係資料の調査を行った際に、書棚から全四冊からなる惺堂の日記が偶然発見された。この日記四冊はすべて和装本であり、昭和二年一月一日から昭和七年一〇月二六日まで記されており、これらを便宜的に『菊池惺堂日記』と呼ぶことにしたい。

この日記は単に昭和初期における菊池家の動向を伝えるだけでなく、稿者が興味のある近代日中書画碑帖收藏史、ひいては都市行政学、経済史、文化史研究の分野においても資料的価値は高いと考えられる。

この度菊池隆村氏のご厚意により日記の翻刻を掲載できる機会を得たが、日記の分量が多いため、日記第一冊は『書法漢学研究』、第二冊は『中国近現代文化研究』、第三冊は『相模女子大学紀要』人文系、自然系、社会系、第四冊は『相模国文』に順次分載することにした。

なお、惺堂の経歴は、拙稿「菊池惺堂とその家系（『中国近現代文化研究』第一五号、二八―五〇頁）、本日記の詳細な解説は、『書法漢学研究』（本日記第一冊所収）を参照されたい。また、閲覧者の便を考えて、凡例はすべての掲載誌に、この略記に関しては日記第二冊から第四冊に載せることにした。

○凡例

- ・漢字は通行字体のあるものはそれに従った。またひらがなはそのままとし、変体仮名や合略仮名が用いられた場合は、現在の通行表記に改めた上で、それらをルビに表記した。
- ・原文にある句読点はそのまま記し、読みやすさを考えて、日時は一字下げとし、また句点のあると考えられる箇所や、人名や地名などが続く場合は、半字空きとした。
- ・濁点の有無には揺れが認められるが、原文に従った。
- ・原文には現在の表記や仮名遣いと異なるもの、あるいは文意の通りによく箇所が見えるが、基本的に原文を尊重した。ただし、明らかに誤りと見られるものは「(ママ)」とルビを振った上で、「()」に訂正した語を記した。
- ・原文に脱字が見える場合は「()」に補足した。
- ・本文の訂正や追記はその旨を特に記さない。また、訂正前の文言は削除した。
- ・編者の原文の補足や注記は「()」に記した。
- ・「()」には原文の割注を示した。
- ・欄外に「日」とあるものは「日曜日」を示しており、日記の途中から見えるようになる。これらは、便宜上注記で逐次示さずに、日付の上に記すことにする。

・判読できない文字は「□」で示し、疑わしい文字には「？」とルビした。

〔題簽〕

日記 自昭和五年四月

至々 六年五月

〔本文〕

昭和五年

四月一日曇冷氣ナリ。午後肴町銀行ヨリ山田二行 高田絹子来。豊ヨリノ通信香港ヨリ来ル 海上到テ平穩ニテ愉快ナル航海ヲ続ケ居ルト云フ

二日曇風 物集女清明氏ノ紹介ニテ永田町ノ軸丸春吉ナル者元柔道家ニテ中風ノ治療ヲ能クスルトキ、之ニ赴キ治療ヲ受ク背随ヨリ処々ヲモム快感アリ夜小倉来。夜暴風雨トナル

三日 雨后天晴 神武天皇祭。お糸ト軸丸氏ニ行 お糸モ治療ヲ受ク。新発田ノ石井銀太老人去廿四日脳溢血ニテ死亡ノ由通知来リ 氣ノ毒ノ至リナリ。

四日晴 新発田ノ石井専松ニ吊詞出ス。お糸ト軸丸ニ行 帰途今川橋ノ三裕商会事務所ニ立寄ル。小倉来 小島来

五日晴 久吉来。細野来。軸丸ニ行。午後青山夫婦来。日本橋区長田村瑞穂氏 浅草区长ニ転ジ市ノ主計課長大里常弘氏 日本橋区长トナリタリト云フ。

日六日晴 微笑先生来。午後廉堂ト上野三宜亭ニ行 霊山ノ彫刻本額会アリ 同人数人ニ遇フ 帰途上野公園池ノ端ヲ廻リテ帰ル 久々ノ好天気ニテ非常ノ雑沓ヲ極ム 桜花ハ満開ナレトモ色アセタリ。夜小倉来

七日晴 午後浜町白石氏ヲ訪フ 不在ナリ 倶楽部ニ行 第十地区税務会ノ報告会アリ 晚餐后帰ル。利根川氏ヨリ電話ニテ 明日栗本ノ件ニテ宇都宮才判所へ出頭スト云フ 次郎モ呼バレタリト 厄介ノ事ナリ

八日晴 軸丸ニ行 お糸脳貧血ノ気味アリ。夜利根川久衛 宇都宮ヨリ帰途立ヨル 栗本今市荷物ノ件ニテツマラヌ暇ツブシ 氣ノ毒ノコトナリ。小倉来

九日晴 軸丸ニ行。午前宇都宮ヨリ次郎ノ代理トシテ伴野光映来リ昨日

才判所ニ出頭セシ由ニテ其事ニツキ相談アリ

十日曇 軸丸ニ行 帰途浅草田原町ノ細野医院ニ廻リ ヨードノ注射ヲ受ク。午後田村日本橋前区长 大里新区長ト挨拶ニ来ル。吉野信一郎来リ 栗本ノ件相談ス

十一日晴 伊沢来。軸丸ニ行

十二日雨 三千代来。伊沢来。軸丸ニ行

日十三日晴曇 夜利根川久衛 栗本二郎来。小倉来。

十四日晴 軸丸ニ行 帰途三裕商会ニ立寄ル 利根川 吉野来リ会ス。桑原七兵衛ノ告別式ニ会ス 午後菊池次郎来。夜栗本二郎来 明日宇都宮才判所へ出頭スト云フ

十五日雨 軸丸ニ行 今日ニテ今月分終了 マタ来月ヲ約ス 日本橋区家屋税調査委員選挙ニ有馬学校ニ行 倶楽部ニ立ヨリ 浅草細野ニ行

十六日晴 今夜中村長安 竹斎 霊山ト新発田へ発足スト云フ

十七日晴 山田ニ行。菊池 觀吾来。高田絹子来 先日中春日井ト京都へ旅行セシト云フ。風強シ

十八日晴 午前堀留警察後援会理事会アリ。午後お糸ト電車ニテ細野ニ行 帰途古塚ニ廻リ久吉方ニテ一枝ノ竹細工ヲ觀ル 碌ナモノナシ。栗本二郎来ル 昨日宇都宮ニ行キシモ要領得ズシテ帰ル 又廿四日ニ出頭ノ筈ナリト云フ。夜小倉来

十九日晴 中村長安ヨリ葉書来ルカ〔加〕 治川ノ桜花満開ノ由ナリ。神谷八百女久々ニテ来ル。上野へ理髪ニ行

日二十日晴 小倉ノ家内其姉共ニ来ル お糸ト共ニ小倉ノ渋谷ノ家ヲ見ント電車ニテ恵比寿駅迄行 少シ戻リテ代官山五番地ニ行 見カケヨキ好適ノ家ナリ 営業許可昨日降りタリト云フ 少憩ノ后西郷山新開地ヲ廻リテ渋谷駅ニ出テ帰ル

二十一日晴 山田ニ行。高田きぬ来

二十二日晴 早川ニ法事アリ お糸^{談記か}□へ行。小倉来 木口金太郎来

二十三日晴 田口勝三郎来 下野ノ人ニテ下野勤王家ノ表彰会ヲ開カント相談ニ来ル。夜介お糸ト神明館ニ忠臣蔵ノ活動ヲ見ル

二十四日晴 午後細野二行 帰途竹町大橋ニ立ヨル 夜金子 宇都宮ヨリ帰
リ立ヨル才判所ノ模様ノ報告アリ

二十五日曇風 朝東新吾ノ紹介ニテ横山藤吉ナル者来ル 午後日本橋区役
所ニ信用組合役員会アリ出席ス 途上今川橋事務所ニ立ヨル

二十六日晴 堀留警察署ニ評議員会アリ 倶楽部ニ立ヨリテ帰ル。中村長
安来今朝北越ヨリ帰京セリトテ北越談アリ。夜中山季丸来。小倉来

日 二十七日晴 午後三野村二行 睦会アリ 種々余興アリテ夜十二時ニ
戻ル

二十八日晴 午後本郷貯蓄銀行ヨリ渋谷百間〔軒〕店ノ日本画報銀行ニ
行取引ヲ開始ス 日本橋倶楽部二行総会アリ。金子来 宇都宮才判所二行不
得要領ニテ帰りシト云フ。

二十九日雨 天長節ナレトモ生憎雨降ナリ。本日はラプラタ丸リオデジ
ヤネーロへ着港ノ日取ナレバ定メテ安着セシコトナルベシ。金子来。桃井
福太郎久々ニテ来ル 朝鮮ニ滞在セント云フ。

三十日曇 午前三千代来。午後芦野楠山ノ告別式ニ日暮里ノ青雲寺二行。
山田二行。金子来 栗本義精来。正太郎来。夜小倉来

五月一日曇 午前十時地震アリ。午後半込中村氏 青山ノ菊池二行キ〔ク〕
病中ノ礼ナリ。午後一時二十五分再地震アリタリト云フ 途上マテ気ツカ
ズ

二日雨 軸丸二行。去廿九日前田慧雲老師逝去之由通知来ル 午後其本郷
西片町ノ居ニ吊礼ス 日本橋倶楽部二行 新田区長ノ送迎会アリ

三日晴 午後二時築地本願寺ニ前田師之葬儀ニ会ス。お糸軸丸二行キ帰
途麻布ノ町田二行 病中ノ礼ヲ述ブ

日 四日晴 名古屋ノ統子出京ス
五日晴雨 軸丸二行 細野ニ廻リテ帰ル。夜小倉来

六日雨 朝正太郎来。軸丸二行
七日晴 軸丸二行 お糸 統子 愛国婦人会總會ニ行 帰途軸丸ニ立寄り共ニ
帰ル

八日晴 軸丸二行。午後日本橋倶楽部二行キ 日本橋区公民会幹事協議会

ヲ開キ 同会解散之件残金五千円ヲ区ノ公会堂建設金中へ寄附ノ事ニ決ス
九日晴 軸丸二行 帰途京橋ノ大住氏ニ立寄り 夜風雨

十日晴 朝中村長安ヲ訪フ。軸丸二行 浅草細野ニ廻ル 血圧ヲ測ル 余百
六十二シテ お糸八百六十三ナリ 上野梅川ニ行 明日ノ三味会ノ準備ヲナス

日 十一日晴 朝梅川亭三味会ニ行 来観者多シ 午後芝田ノ太田氏尋ネ来ル
数日前ヨリ上京今晩帰国スト云フ

十二日雨 軸丸二行 帰途梅川亭ニ立ヨル 今日モ来会者多シ 夜慰労会ヲ
開ク

十三日晴 軸丸二行 帰途松阪やニ立寄り。夜小倉来。
十四日晴 軸丸二行。午後三時半ヨリ三野村ニ誘ハレ 介ト歌舞伎座ニ行
厂次郎上京ニテ 幸四郎等ト一座ニテ〔〕管〔菅〕 原伝授道明寺ノ場
「鈴ヶ森」赤根染ノ改心等ニテ久々ニテ面白シ お糸ハ此日大橋氏ノ茶会
ニ招カレ同道セズ。夜小倉来

十五日晴 軸丸二行 今月分終了 来月ヲ約ス 帰途細野ニ廻リテ帰ル。小
倉阿部氏の具束ヲ持参シ来ル。お絹来ル

十六日晴 小島来。午後青山孝三夫婦来 東海翁ノ神主ヲ祭ル。夜小倉来。
午后長安来

十七日晴 朝五時二十分地震アリ。お糸ト天王寺ニ墓参シ山田ニ廻ル。
午後三千代来リ 蒸療治ヲスル 関原悌治氏ヲ連れ来ル お糸ト治療ヲ受ク

日 十八日晴 小島来。木口金太郎来。瀬尾南海来 午後温包治療ノ関原
来

十九日曇雨 金子来。関原氏来。細野二行。名古屋春日井老人ノ一週忌
法会ニツキ招待サレ十時ノ夜行ニテ名古屋ニ向フ お糸 三野村夫婦同行ス

二十日曇晴 朝六時十分名古屋着 三野村兩人ハ伊勢参宮スルト山田ニ
向フ 余等ハ直チニ春日井ニ行 夜逮夜ニ供養アリ 近親来会ス

廿一日晴 午前九時ヨリ極楽寺ニテ法会アリ 昼ノ供養アリ 東京ヨリ三
野村兩人来

廿二日晴 豊川枳枳尼天〔吒枳尼真天〕新築落慶開帳ニ〔ノ〕由ニツキ
参詣セント春日井兩人 三野村兩人ト午前九時熱田ヨリ電車ニテ豊川ニ向

フ一時間程ニテ着 御祈禱ヲ頼ミ昼食し鳳来峽ヲ一見セント自動車ニテ北
ニ向フ三河ノ一ノ宮野田城趾等ヲ過キ新城町ヨリ長篠町ニ到ル是ヨリ溪
流ニ沿フテ上ル湯谷ニ到リ下車 源泉出テ旅館数間アリ 溪流ノ景幽趣ア
リ少憩ニテ帰途ニツキ豊川ヨリ電車ニテ晩際帰名ス

廿三日 晴 午前九時ヨリ極楽寺ニ行 諦観院四十七回忌法会執行アリ。午
后ヨリ京都ニ立寄ラント 五時十四分名古屋発 八時過キ京都駅着 慧迎ヒニ
来ル 直チニ三本木ニ行孫共欣ヒ迎フ

廿四日 晴 午後寺町通ヲ散歩ス

日廿五日 晴 午前お糸 慧庸子 正子同行ニテ円山公園ニ散歩シ 三条ヨ
リ電車ニテ八幡ニ行 ケーブルニ乗り石清水八幡ニ参詣ス 帰途中書島ヨリ
乗り換ヘ宇治黄檗山ニ参詣シ 門前白雲亭ニテ普茶料理ニテ午餐シ 又電車
ニテ帰ル。夜六時十分京都発ニテ名古屋ニ向フ 慧ハ九州ニ向テ発ス 九時
半名古屋ニ着 春日井ニ行 三野村今朝帰京セシ由ニテ 昨日木曾寢覺ノ床ノ
三徳稲荷ニ参詣セシ由ニテ 春日井兩人モ近日参詣セントノ談シ 然レハ明
日ハ閑暇ナレバ同行セント約ス

廿六日 晴 午前七時五十五分中央線ニテ名古屋ヲ発ス 定光寺駅辺ヨリ溪
流ニ沿フテ上ル 多治見 中津川ヲ経テ 落合川ニテ木曾川ノ本流ニ沿フ 景
色次第ニヨシ 十二時半上松駅着下車自動車ニテ寢覺ノ床ニ到リ臨川寺内
ニ三徳稲荷社アリ 寺僧見沢朴山其由来ヲ説ク 三年前ニ勸請セシモノニテ
奇瑞多シト云フ 病氣平愈ノ祈禱ヲ願シ 門前ノ蕎麦屋ニ少憩シ 午後四時上
松発ニテ帰途ニツキ 八時過キ帰名ス

廿七日 雨 愈帰京セント 十二時五十八分名古屋ヲ発シ 八時東京駅ニ着ス
廿八日 晴 午後山田ニ行。お縷 お絹来

廿九日 晴 午前関原氏来ル。午後三時ヨリ池ノ端清涼亭へ廉堂ト行ク 独
活大王ノ一週年祭ヲ三昧会同人ニテ執行 来会者三十余人ニテ盛会ナリキ

三十日 晴 午後細野ニ行 帰京山田ニ行。夜吉野来

三十一日 晴 午後銀座ニ行 鳩居堂 松屋ニテ法事ノ敷物ヲ求ム。新居友
三郎昨日死去「之」由ニツキ浜町ノ家ニ弔礼ヲ述ブ。

日六月一日 晴 朝散歩田端山王日枝神社ニ参詣ス 昨日ヨリ祭礼ナリ。

午前三時ニ地震アリ 強シ。夜小倉来

二日 雨曇 午後軸丸ニ行。新居氏ノ告别式ニ青山ニ行

三日 晴 午前三野村兩人来 酒巻正明氏ヲ伴ナヒ来ル 方位家ナリ種々談
アリ 参考トスルニ足ル。午后軸丸ニ行。津村重舎来。夜小倉来

四日 晴 朝肴町ノ銀行ニ行。軸丸ニ行 帰途渋谷ノ銀行ニ廻リ省線ニテ帰
ル

五日 雨 午前十一時ヨリ清水ビルヂングニ行 新居氏ノ初七日 供養アリ
了テ午餐ヲ饗セラル。軸丸ニ行 朝名古屋ヨリ統子来ル

六日 晴 軸丸ニ行 細野ニ廻ル

七日 晴 午後御逮夜ニツキ青山夫婦 三野村兩人等来ル。朝 慧 京都ヨリ
来ル。

日 八日 晴 午前十一時ヨリ天龍院ニテ思莊院二十三回忌法会執行 親戚
三十余名来会 終テ池ノ端清涼亭ニテ午餐ヲ饗ス

九日 晴 午後二時ヨリ堀之内真盛寺ニテ三野村初子十三回忌法会アリ之
ニ会ス

十日 晴 軸丸ニ行。午後三野村等と明治座ニ行 吉右エ門ノ勸進帳ヲ観ル。
豊ヨリ書面来

十一日 曇 軸丸ヨリ細野ニ廻ル。夜三昧会別会ニテ五条天神社瀬川氏ニ
行。慧京都ニ帰ル。小倉来

十二日 晴 朝統子名古屋へ帰ル。朝金子来 昨日宇都宮才判所ニ出頭シ栗
本ノ件畧落着セリト云フ。軸丸ニ行 帰途松坂やニ買物ス

十三日 晴 軸丸ニ行。正太郎来 豊へノ送金頼ム 夜久々ニテ百話会ニ出
席ス

十四日 晴 軸丸ニ行 細野ニ廻ル。

十五日 晴 雨 夜小倉来

十六日 雨 午前本郷下谷ノ両銀行ヨリ山田ニ行

十七日 晴 午後お糸ト日本橋俱樂部ニ行 織雄来。小倉来。豊ノケープタ
ウンヨリノ通信来

十八日 晴 午後高田絹子来 共ニ三越ニ行買物ス。夜活動

十九日曇 午前肴町銀行ヨリ山田ニ廻ル。午後孝三兩人来
二十日晴 倶楽部ノ午餐会ニ出席 役員会アリ 午後お糸ト細野ヲ廻ル。
三千代坂卷氏ヲ伴ナヒ来ル

廿一日晴 午前博文堂老人来。夜小倉来

日廿二日曇 夜雨午後お糸ト山田ニ行。春日井ヨリ大阪大家氏ノ老母死
去「之」由通知来。

廿三日曇 夜三浦鼎来 高田ニツキ種々相談アリ

廿四日曇 午前関原氏来リ奄包治療ヲナス。午後中村長安来。夜日坂来
リ能ヶ谷灸治所ノ切符ヲ持参シ来ル

廿五日晴 午前伊能登来。関原氏来

廿六日曇 午前関原氏来。小田急線鶴川駅ニ能ヶ谷ノ中氣ノ名灸治療ア
リトノコトニテ旧曆ノ六月一日ニ限りテ「ア」ル由ニテ夫レハ今日ナレ
バ午後介二郎伴シテ電車ニテ新宿乗り換へ小田急線ニテ鶴川ニ着ス 治療
ノ為メ来会数百人アリ 神蔵氏邸内ニテ執行三火膝ノ辺ヘスヘルナリ 其ア
トヘ毫〔膏〕葉ヲハリテオケバ ソレヨリウミイテ、其毒ヲ去リ 将来起ル
コトナシト云フ

廿七日雨 午前関原来。

廿八日曇 雨午前関原来。博文堂主人来。午後山田ニ行。夜小倉来

日廿九日雨 午前関原来。

三十日晴 関原来。金子来 高田ノ事ヲ頼ム。

七月一日晴 関原来。

二日晴 午前関原来。小島来。栗本義精来 不当ノコトヲ申出ル。正太郎
来。高田絹来

三日晴 関原来。金子来。小倉来。暑氣加ハリ庭前百合花開ク。山田ニ
行

四日晴 関原来。安倍止水来。秋篠寺住職堀内瑞雲和尚名古屋「之」人
芝垣某ト共ニ来ル。暑氣強ク八十八度ニ上ル。木口尚友堂来

五日曇 関原来。中村茂八来。倶楽部午餐会ニ行 晩方上野ヨリ本郷ニ行。
夜小倉来

日六日曇 関原来。小島来。午後お糸ト三越へ行 夜電話京都ヨリカ、
リ照子疫痢ニテ入院セリト云フ

七日曇 夜雨 関原来。小島来。午後梅川亭ニ丹霞翁ノ画会ニ行。木口来。
小倉来

八日晴 関原来。小島来。午後梅川亭ニ行キ 帰途山田ニ立ヨル 三千代
ニ遇フ。青山夫婦来

九日晴 関原来。博文堂老人来。午後齒科医三上ニ行。

十日雨 関原来。中村長安来。倶楽部午餐会ニ行 帰途三上ニ立寄ル。

十一日曇 関原来。夜百話会ニテ百尺ニ行

十二日晴 関原来。午後お糸ト天王寺 天龍院ニ慕参シ 山田 三上ニ立寄
リテ帰ル。博文堂老人来 木口尚友堂来

日十三日晴 関原来。町田統子等来ル

十四日晴 関原来。金子来。栗本義精来 病氣ノ故ヲ以テ面会ヲ謝絶セシ
ニ聞カスシテ玄関ニ午後四時頃迄端座シテ遂ニ去ル。金子来。

十五日晴 関原来。高木光教与八郎来。榊原鉄研〔硯〕来 午後三上ニ
行 お糸ト松坂ヤヨリ金子氏ヲ訪フテ帰ル 栗本又来リ面会ヲ強要セルニヨ

ル。三野村兩人来。溽署九十度ニ上ル。白石氏男児安産アリタリ

十六日晴 関原来。栗本亦来ル 四時迄玄関ニ坐シテ立チ去ル。

十七日晴 関原来。栗本又来ル

十八日晴 関原来。午前肴町銀行ヨリ渋谷ノ銀行ニ行キ町田氏ヲ訪ヒテ
親戚伊瀬知氏ノ不幸ヲ吊シニ松学舎ニ山田準ヲ尋ネ三越ニ行 守尾ニテ買
物シ白石氏ヲ訪ヒ 中村氏ヲ訪テ出産ヲ祝シ 山田ニ廻リテ帰ル。栗本又来
レリト云フ。九州方面台風ニ襲ハレタリト云フ 随テ風強シ

十九日雨 関原来。栗本又来。小倉来 正太郎来。午後お糸小倉方ニ赴ク
日二十日曇 関原来。午後三上ニ行

廿一日晴 肴町銀行 動阪銀行ニ行。金子来

廿二日曇 雨 信州鹿教湯ニ避暑セント 午前九時二十五分上野ヨリ発ス
お糸 木口尚友堂 小堀女中同行 青山夫婦 三野村夫婦 金子 正太郎等送り来
ル 途中曇天ノ為メ暑氣強ヨカラズ 軽井沢ヲ過キテヨリ雨降り出テ 大屋着

三時四十分直チニ自動車ニテ鹿教湯ニ向フ。五里ト云フ。大雷雨トナル。齋藤旅館ニツク。小溪流ヲ仰ミタル山村ニテ温泉ハ溪流ノ岸ニアリ。共同湯ナリ。対岸ニ文殊堂アリ。聊カ風情ヲ添フルノミ。雷雨激シ。別館ニ移ル。楼上ニ間ハ畳。四半畳ナリ。一浴ス。微温三十八度位ナリ。中風患者ノミナリト云テ可ナリ。

廿三日晴。夜来雨霽ル。山氣清涼ナリ。端書ヲ廉堂長安山田不老ニ出ス。木口小堀帰途ニ上ル。午後驟雨一過。暑氣八十度。二回入浴ス。夜雨。

廿四日曇。端書ヲ細田原田菊池次郎ニ出ス。入浴二回。

廿五日曇。朝清涼。〔入〕浴二回。午後四時頃ヨリ雷雨。

廿六日晴。午後又雷雨アリ。東京ヨリ書状数通廻道シ来ル。五泉ノ高橋ニ端書出ス。

日廿七日晴。東京ヨリ書状数通廻道アリ。町田ノ娘文代の縁談取り極めニなりたりと云ふ。又大雷雨アリ。

廿八日晴。朝清冷六十四度位ナリ。午後驟雨一過アリ。

廿九日晴。東京ヨリ書簡廻道あり。豊ヨリ廻信来る。大住より菓子送り来る。阿部中平、瀬川澄磨、金子へ端書出ス。午前散步笠岩ニ至ル。十数丁廻りたる処々杉林中と〔二〕巨大ノ陽石なり〔あり〕。高二丈程モあるらん。注連ヲ張りて之を祭る。

三十日雨。山雨蕭々後晴レタリ。曇リタリ。晩方ヨリ又雨トナル。終日無聊。

三十一日曇。雨終日降タリ止シタリ。鬱陶敷日ナリ。高橋善十郎ニ端書出ス。

八月一日雨。又朝ヨリ雨ナリ。溪水濁流混ミタリ。

二日晴。久々ニテ太陽を仰ミ。残雲猶低迷。時々小雨を送ル。植村和吉氏死去ノ由新聞広告テ見ル。金子ニ宛吊詞ヲ托ス。

日三日晴。博文堂阿部中平ヨリ書状来。此地ニ来リニ週間ニモナレバ一先ツ立ツコトトナシ。五日ニ上山田清風園ヘ行クコトニ決ス。凡十一里程アル由ナレド。汽車ノ乗り換ヘ等不便ナレバ。自動車ニテ直通スルコトトナス。

四日晴。午後小堀来ル。鈴木光栄。中屋敷□ト来ル。

五日晴。愈鹿教湯ノ仙郷ヲ去ルコトトシ。午前九時自動車ニテ発ス。光栄

サン等モ同行スルコトトナリ。大屋ヲ経テ上田ニ至ル。一時間中屋敷氏ノ上田ニ下車シ。三十分間程自動車ノタイヤヲ修理シ。上田ヲ発シ。千曲川ニ沿フテ国道ヲ行キ。又一時間余ニテ戸倉ニ出テ。千曲川ノ大正橋ヲ渡リテ。上山田ニ着ス。清風園ヲ探ス。園内ノ別館ニ入ル。同温泉ハ新探ニテ千曲河原ニ建テタルナレバ。風ハ吹透フレドモ。温度ハ暑ク八十八度ニ昇ル。沙地ニテ海岸ノ別荘ノ心地ナリ。温泉イラーノ氣アリ。臭シ。六号室トテ半洋風ニテハ畳一間。二六畳ノ洋風。応接室ニ六畳ノ二階浴室。勝手等アリ。木口氏半日来訪ノ筈ナリシニ。長野ヨリ電話ニテ今日ハ長野ニ宿リ。明日来訪ノ由申来ル。山田中村ニ端書出ス。

六日晴。サスガニ朝氣ハ清涼ナリ。木口長野ヨリ来リ。今日軽井沢ニ行トテ直チニ去ル。五泉ノ高橋ト博文老人ニ端書出ス。高橋善十郎ヨリ書面来ル。座敷ヲ整頓シ稍落付ク。昨日ヨリ涼氣ニテ八十五度位ナリ。河風常ニ吹ク。夜散歩ス。月明ナリ。

七日晴。小堀帰京ス。午後関原氏郷里糸魚川へ帰り。今又帰京ノ途ニテ立寄ル。血圧ヲ計ル。二百五十ミリ。お糸は百四十ミリニテ経過良好ナリ。田辺碧堂ヨリ書面来ル。端書出ス。細田氏ヨリ見舞ノ菓子束。大住細田両氏ニ端書出ス。蓮華院祐光。小宮山時庵ニ端書出ス。夜町を散歩ス。

八日晴。高橋光威逗子に在ルニ書ヲ寄ス。中村長安原田博文〔堂〕ヨリ書状来。光栄帰京ス。送テ停車場迄行。

九日晴。中村長安ヨリ書状来。

日十日晴。朝七十度清涼ナリ。大住ヨリ端書来。町田の千代子モ縁談キマリタリと青山ヨリ申来る。遠雷ヲ聞クモ遂ニ雨フラス。晩方大正橋畔ニ散歩ス。若宮八幡宮ニ参詣ス。延喜式内ノ神社ニテ佐良級神社ト云フ。社内老杉鬱葱〔蒼〕タリ。安部止水ヨリ端書来。

十一日晴。端書ヲ安部止水ニ出ス。町田豊千代ヨリ書状来。二女ノ婚約ヲ通知シ来ル。返書出ス。小宮山空軒ヨリ端書来。蓮華院山田不老ヨリ端書来。

十二日晴。午後驟雨一過。涼氣頓加。

十三日晴。曇終日涼氣ナリ。

十四日晴午後驟雨一過

十五日晴午後小宮山空軒来話

十六日晴青木石農来 東内村ノ人ニテ画ヲ能スト云フ 午後青木石農再〔ビ〕来リ 遠藤某ト云フ上田ノ医師ヲ伴ナヒ来て詩ヲ能スト云フ 風雅好キノ人ナリ

日十七日晴大ニ冷氣トナル。午後おなみさん来。木口尚友堂来。

十八日晴木口星石伯ノ竹ノ図ヲ持参ス。

十九日晴長野ノ道華院主令嬢ト共ニ来ル。午後三越店負石合平右工門来上田ノ遠藤氏ノ親戚ナリト云フ。夜石合氏ノ部屋ヲ尋ネル

二十日雨半日雨ふり後晴。午前京都より慧一郎 庸子 正子を連レテ来ル。夜雨

廿一日晴夜介二郎来

廿二日晴午後二号室へ移ル室ハ八畳六畳二間ツ、キニテ椽傍アリ二畳ノ玄関ニ浴室台所付ニテ前ヨリハ少敷熱ケレトモ座敷ハ体サイ良シ

廿三日晴長野ニ行カント午前八時ヨリ自動車ニテ発シ屋代へ出デ松代ニ至リ旧城趾ヲ觀テ象山 西条山ヲ望ミ川中島ニ至ル 八幡原ニ八幡ノ古社アリ 其傍ノ田圃中ニ甲越両将撰〔接〕戦ノ地ノ旧趾アリ 夫ヨリ犀川ノ橋ヲ渡リ長野ニ入ル 蓮華院ニ至ル 夫ヨリ善光寺ニ参詣シ蓮華院ニテ午餐ヲ饗セラル 午後二時清風園ニ帰ル 慧ハ松本ニ行友人ヲ訪フト云フ。小宮山空軒ヨリ書面来ル 河〔川〕村驥山ヨリ書面来。中村長安ヨリ書状来 山田老人病氣ノ様子報じ来ル 依テ山田へ端書出ス。夜千住ノ林ト云フ老人来 謡曲好ナリ

日 廿四日晴終日風アレ共暑氣強シ 晩方ヨリ遠雷ヲキ、タレトモ雨ラズ

廿五日晴小倉夜行ニテ来ル。介二郎一時四十二分ノ急行ニテ帰京ス。夜九時二十五分ニテ慧一郎 子供等ト帰洛ス

廿六日晴午後新七来。原田博文〔堂〕ニ書面ヲ出ス。

廿七日晴夜雨午前一同ニテ更級神社ニ参詣シ 山ニ登リ八王子神社ニ参ル。午後小宮山老人来。夜雨。終列車ニテ小倉児玉帰京ス

廿八日晴大ニ冷氣トナル 日中八十度ヲ出デス。午後八時四十分ノ急行ニテおなみ帰京ス。散歩前山ノ波閉科神社ニ詣ス

廿九日晴下妻沿〔沼〕尻夕治ノ母 廿四日死去之由通知来ル 吊書出ス。原田博文堂ヨリ受取ノ書状来。午後驟雨一過 冷氣ヲ送ル

三十日晴原田ニ書面出ス。山田老人京都ノ孫等ヨリ端書来ル

日 卅一日曇久々ニテ揮毫ス。午後驟雨来リ冷氣頓加ハル。

九月一日晴冷氣ナリ。東京ニテハ震災七年記念トナレバ定メシ種々ノ催シアルナルベシ。春日井ヨリ生鮎ヲ送来ル

二日晴揮毫ス。細田大住ニ端書出ス

三日晴川村驥山自熱海致書。

四日曇小雨

五日晴午前春日井友人来。午後孝三夫婦来

六日晴午後孝三 春日井等ト散歩 波閉科神社ニ詣ス。菊池次郎ヨリ書面来ル。小宮山空軒来。明日中秋ナレバ姨捨ノ名月ヲ賞セント思ヒシモ今日ハ晴天ナレバ明日ノ陰晴惻ルベカラズト今日ノ事ニ決シ 孝三 春日井等ト一行ハ人支配人宮原氏案内ニテ自動車ニテ発シ 午後四時ヨリ三十分余テ姨捨駅ニ到リ下車公園ニ到ル 眺望絶景ナリ 川中島ヲ中心ニシテ東西ノ諸山ヲ望ム 稍下テ長楽寺ニ投ス 是ヨリ有名ナル田毎ノ月ヲ觀ル 処ニテ觀月堂アリ 觀音ヲ安ス 庭中碑石多シヤガテ東方鏡台山ノ右手ノ方ヨリ大月徐々トシテ升ル 真ニ絶景ナリ 来月ナレバ鏡台山ノ上ニ登ルト云フ 田毎ノ月ハ前面段々ニナリタル田ニ影ヲ写スナレトモ今ハ猶稲刈リ前ナレバ写ラズ 但シ其ノ古ハ特ニ刈リ取ラセタルモノナリト云フ 七時頃迄月ヲ賞シ又自動車ニテ帰途ニツク。博文堂老人ヨリ電話ニテ明日来ルト云フ

日 七日晴孝三 春日井等ハ長野エ行余ハ博文堂老人来ル由ナレバ今日ハ見合ハス。菊池次郎 青木英作 共立東京支店等へ書面出ス。午後原田博文〔堂〕老人来リ 暫時対談 富士見ノ別荘へ向ケ帰ル。

八日晴一同ニテ別所ノ温泉ニ一遊セント 午前九時五十分戸倉發ニ乗車 三十分程ニテ上田着 直チニ電車ニテ別所ニ向ヒ十一時頃花屋ホテルニ着 ス入浴シ午餐ヲ採ル 少憩ノ後所々見物ス

北向観音堂 北向ノ観音ハ全国ニ一ヶ所ナリト云フ 安楽寺創建ハ聖武天皇ノ天平時代ナルモ其後兵燹ニカ、リ 後鎌倉時代ニ樵谷惟仙禪師ノ開山ニテ再興シ 禪師入宋シ宋人二人随從シテ帰朝シ後山々八角四層ノ塔ヲ建ツ 是伏見帝ノ正応元年ナリト云フ 比類ナキ古塔ナリ 特別保護建造物ナリ 其外同禪師并て宋人ニテ第二世トナリシ幼牛惠仁禪師ノ木像アリ 皆国宝ニ指定セラル 幽邃ナル名利ナリ 常楽寺 天台宗ノ古寺ニテ北向観音出現ノ淨地ナリト云フ 御舟ノ松ト云フ古松庭前ニ在リ 余吾〔五〕 將軍維茂ノ塚アリ 將軍此観音ニ祈誓ヲコメ戸隠山ノ鬼女ヲ退治セシ縁ニヨリ立タル追善ノ塔ナリト云フ

五時過キ自動車ニテ帰途ニツキ 六時五十分上田発ニ乗リ込テ帰ル。大住氏ヨリ書状来

九日晴 大住 青木へ端書出ス。夜九時春日井帰名ス

十日晴 揮毫ス

十一日晴

十二日曇雨 青山夫婦帰京ス。晩方清風園ニテ千曲川上流へ築ヲ掛ケタリトノコトニ宮原ト見物ニ行 小魚ノミニテ鮎一尾ヲ得テ帰ル

十三日晴

日十四日晴 町田氏祝儀〔儀〕ノ為メ帰京セント 午前五時五十六分戸倉駅発車 午後一時五分上野着 家人等迎ニ来ル 直チニ田端ニ帰ル

十五日晴 午前銀行ニ行 山田ニ行 老人大ニ衰弱々体ナリ。午後お糸ト飯田町太神宮ニ行ニ結婚式執行ニ参列ス了テ東京会館ニ行 六時披露宴ヲ開ク。午前共立生命ノ松尾氏来リ 本社ヨリノ取締役退役ニツキ感謝状并ニ慰勞金ヲ送り来ル。

十六日曇 午前安部止水来。金子来。中山梨軒来ル 午後二時二十五分上野発ニテ帰信ノ途ニツク 青山夫婦等送り来ル。軽井沢辺ヨリ降雨 夜九時二十九分戸倉駅着 直チニ清風園ニ帰ル

十七日雨 中村長安ヨリ端書来ル 足利ニテ靈山ノ茶掛会アリシ由ナリ。共立ノ落井氏へ礼状出ス。

十八日雨 午後小宮山空軒老人来話

十九日雨 梁ニテ鮎数百尾取レタリト云フ 中村へ送ル
二十日晴 午前久吉来。今日モ鮎数百尾取レル 夜青木石農来。細田大住ニ鮎ヲ送ル

日廿一日晴 久吉長野ヲ廻リテ帰京ス。中山梨軒ニ書面出ス 斎藤幸塙十八日死去之由通知来 伊沢ニ香奠ヲ托ス 夜町田ト白石ニ鮎ヲ送ル

廿二日晴曇 冷氣。細田ヨリ端書来ル。原田ヨリ端書来

廿三日晴 午後より雨降り出で 夜ハ風強シ。大住ヨリ端書来

廿四日晴 五泉ノ高橋ヨリ書状来ル。純子ヨリ書面来

廿五日晴 白石ヨリ書面来 京都藤井ヨリ書面来。町田 伊沢ヨリ端書来。

廿六日雨 又町田家文代祝儀ノ為メ上京セント 午前八時六分戸倉発ニ乗リ込ム 途中変リタル事モナク 午後三時二十分上野ノ着 迎之者来ラス 何かノ間違ヒナルベシト 自動車ヲ借〔請〕ヒ山田先生ニ行 電話ニテ聞ケバ端書ノ読ミ違ヒニテ時間ヲ謬リタリト云フ 天王寺 天龍院ニ墓参シテ帰宅ス 御彼岸ナレバナリ

廿七日晴 竹内庚二来。午後二時半東京会館ニ行 式モ長寫式ニテ執行 夜祝宴

日廿八日晴 原田博文堂来。午後二時二十五分上野発ニテ帰信ノ途ニ上ル 町田純子同道ス 群馬県ニテ雷雨アリ 后晴レ 夜九時二十九分戸倉ニ着 直チニ清風園ニ帰ル

廿九日晴 早朝佐藤恒太郎来ル。

三十日晴 清風園依頼ノ額面ヲ描ク

十月一日晴 風 午後一時半ヨリ乗合自動車ニテ糸□恒さん等ト八幡ニ行キ 武水別神社ヲ拜ス 古木鬱葱〔蒼〕タル大社ナリ 序ニ長野ニ廻ラント 又自動車ニテ発ス 稲荷山篠ノ井等ヲ経テ四時頃長野ニ着 善光寺大勸進等ヲ参詣シテ夜七時上山田ニ帰ル 強風トナル

二日曇 時々小雨

三日晴 午後散歩 波閉科神社ヨリ観音堂ニ至テ本尊ハ非常ナ古仏ノ十一面観音ニテ近日国宝ニ指定サレル筈ナリト云フ

四日晴 午後二時ヨリ自動車乗合ニテ姨捨ニ行 駅前ヨリ徒歩 公園ニ遊

比長樂寺ニ至ル八月十三夜ノ月ヲ賞セント寺院ニテ少憩ス 門前ニ芭蕉翁ノ碑アリ 面影冢ト云フ 面影や姨ひとり泣く月の友ノ句アリ 寺中庭前古碑林立チトウルサキ感アリ ヤガテ鏡台山上ニ月影現ハル雲多ケレトモ亦風情アリ 七時帰寓。十一時ノ夜行ニテ純子帰京ス 恒サント伴ニ遣ハス

日 五日晴 当地ノ水天宮ノ秋祭りニテ角力 獅子ノ野台 大花火等ノ催シアリテ土地柄相当ニ賑フ。長野人羽田重次郎ニ逢フ

六日晴 細田ニ端書出ス。今宵ハ中秋ナレトモ雲多クシテ余リ晴朗ニアラズ。

七日晴 午後木口金太郎来。正太郎来リ木口ト共ニ長野ニ行。中村菊馬ニ書状出ス。秋田直吉老母死去「之」由ニツキ吊詞出ス。晩方雷鳴小雨アリ後月色清明

八日晴 正太郎長野ヨリ帰り来ル。午後正太郎帰京ス 新館楼上ニ月明ヲ賞ス

九日晴 晴夜雨 益田ヨリ書状来

十日晴 小宮山ニ書面出ス。午後小宮山老人来

十一日晴 廿日ニ帰京十五六日頃長野ヘ行クコトニ決ス

日 十二日晴 午前三野村電報ニテ山田老人病氣重体ニナリト通知シ来ル 因テ見舞ハント 午後二時二十五分発ニテお糸ト帰京ノ途ニ上ル 夜九時十五分上野着 介二郎等迎ニ来ル 直チニ山田氏ヲ訪フ 面会ス 胃癌ノ様ナル症状ニテ近來ハ食物一切受ケ付ツケズトテ非常ノ衰弱ノ容体ナリ 併シ意旨音細ノ別確カニテ非常ニ喜ビテ種々談話ス

十三日晴 午前齒医者ニ行。介二郎ト山田氏ヲ訪フ 種々相談アリ 至急変状アリトモ見受ネバ別ヲ告ケテ 午後二時五十分上野発ノ汽車ニ赤羽ヨリ乗りテ夜九時十八分戸倉ニ着ス

十四日晴 中村ノ樋口鵬次郎ヨリ書面来ル。

十五日晴 益田ヨリ書状来。お絹 大次郎ヲ連レテ来ル

十六日晴 戸隠神社ニ参詣セント 午前十時五十三分戸倉発ニ乗り込ム お絹 大次郎 お糸同行 十一時過長野着 直チニ藤屋旅館ニ投ズ 自動車（マ）ニ（ノ）都合ニテ明日参詣ノコトトス 午後蓮華院ニ行。夜小宮山老人 蓮華

院祐光来話 藤井哲三来話 明日蓮華院同行ヲ約ス。十三日安達丹霞老人死去「之」由通知来

十七日晴 早朝発足 善光寺ノ裏 塩沢砒泉ノアル処迄十三丁程自動車ニテ是ヨリ七曲リト云フ 竣坂ヲ十丁余徒歩ニテ登ル 九時半頃荒安村ニ達ス 少憩是山路ヲ自動車ニテ行 飯繩山麓ノ郊（マ）〔高〕原ナリ 途中富士見ノ茶屋 浮島大蛇カ池等ヲ経て一之華表ニ出ツ 戸隠山ヨリ白馬山脈等ヲ望ム 絶景ナリ 大久保ノ茶屋ヲ過キ室光社前ヲ右ニ採リ中社ニ至ル 是ヨリ又山路ヲ数丁輿社ノ入口逆川ニテ下車 参道十五丁真直ノ路ニテ 両側ノ深林紅葉黄葉折□リテ美ケリ 輿社ニ至ル 古社ナリ 停ニ九頭竜社アリ 後方ニ戸隠ノ屏風ノ如キ山ヲ負ヒ 前ハ南方遙ニ眺メアタリカ一面ノ紅葉ニテ実ニ絶景ナリ 休憩少時ニシテ中社ニ参詣ス 神社宏壮ナリ 武井ト云ヘル家ニテ午餐ス 時既ニ二時 是ヨリ前路ヲ下リ室光社ニ参詣シ 荒安ニ到ル 四時又七曲ヲ徒歩シ五時塩沢ニ下ル 迎之者来レトモ自動車来ラズ已ムヲ得ス 徒歩ニテ下ル 途中ニテ車ニ値ヒ藤屋ニ帰ル 薄暮ナリ 随分疲労セリ 直ニ寝ニ就ク

十八日晴 午前市中ニテ買物ス。蓮華院小宮山来ル 十一時ヨリ自動車ニテ上山田ニ帰ル。山田老人死去「之」由電報来 実ニ残念ノ至リナリ 直チニ吊電ヲ打ツ

日 十九日晴 朝小倉来。昨日来チト風邪ノ気味ニテ咽喉ヲ侵サレタルカ 休養ス。利根川久エ〔衛〕来

二十日晴 雨 愈本日帰京ノコトニ決ス。午前小宮山老人 蓮華院主送別ニ来ル。午後二時五十五分発ニテ帰京ス 久々ニテ雨強シ。七月廿二日京ヲ発シテヨリ九十一日ナリ

廿一日 雨晴 風雨強ク雷鳴サヘアリ。午後山田氏ニ弔ス。三味会ニ梅川亭ニ行。三千代来。関原来

廿二日晴 古池来。野本善三郎 駒木ノ件ニテ来ル。児島来 木口来。午後竹町ノ事務所ニ行。夜関原来 小倉来。青山夫婦来

廿三日晴 午前木口来。午後浅草橋ビルニ行 関原氏ニ太陽光線ノ治療ヲ受ク。お糸ト町田ニ行 山田新夫婦 廿八日桑港ヘ出立ノ送別会アリ

廿四日晴午前両国ビルニ関原氏ヲ問フ。山田二行故先生ノ初七日ニテ法会アリテ午餐ヲ饗セラル。小倉来

廿五日晴雨七時半地震アリ。午前両国ビル二行。倶楽部ノ午餐会ニ出席ス

日廿六日雨午後平井文三夫人告別式ニ谷中斎場ニ行 お糸ト天龍院ニ墓参シ山田二行三千代と值フ

廿七日晴午前関原氏二行。山本寸艸ノ七秩会ニ上野梅川亭ニ行。介二郎支那漫遊ノ目的ニテ急ニ思ヒ立チ九時ノ神戸行ニテ発足ス

廿八日晴旧東海銀行ノ重役連久々ニテ懇親会ヲ兼ネ観楓会ヲ開催スルコトニ賛成シ午前六時二十分浅草駅発ノ東武電社〔車〕ニ乗り日光ニ向フ加納高木滝沢幸島同行栃木駅ニテ手束小平同乗九時日光駅着直チニ自動車二台ニテ中善寺ニ向フ次郎及高橋〔二字アキ〕同行ス水沢□□

若方等瀑辺迄ハ紅葉殊ニ好シ華嚴瀑ノ「エレベーター」ニ初メテ乗ル中宮祠ニ参拜シ歌ノ浜ニ廻リ立木ノ観音ニ参詣シ「レーキホテル」ニテ午餐

シ夫ヨリ山を下リ猶時間早ケレバ霧降瀑ノ〔ヲ〕看ル紅葉殊ニ好適なり小憩ノ後今市ヲ経テ鬼怒川温泉地ニ遊ビ又塩原ニ向フ途中船生ニテ岩屋ノ観音ヲ拜シ西那須野ヨリ塩原山中ニ入り六時塩ノ湯名賀屋ニ着ス。此

日午前九時お糸お嶺上山田二行

廿九日雨晴朝ヨリ小雨ニテ殊ニ紅葉ノ色ヲ添フ雨中公園辺迄散歩ス。午後幸ニ雨止ム自動車ニテ帰途ニ就ク天狗岩ノ辺ヨリ洞門ノ辺迄紅葉よし西那須野ヨリ乗車氏家二下車滝沢氏ヲ訪フ古器物古書画等ヲ観六時

急行ニ乗りテ八時十分上野へ着ス

三十日晴森村竹軒来。午後早川ヨリ章次郎急病ニテ今朝死去「之」由電話アリ因テ駒沢ニ赴ク盲腸炎ニテ十六日発病昨日手術手後レニテ終

ニ亡シクナルト云フ氣の毒ノ至リナリ。上山田へ電報打。両国ビル二行

卅一日晴両国ビル二行。木口金太郎来。午後三野村夫婦来。小島来。

十一月一日晴午前両国ビル二行。午前十一時ヨリ小石川源覚寺ニ行早川氏告別式アリ二時過キ帰宅ス高田きぬ来。小島来

日二日雨寒雨蕭々上山田ニ端書出ス。豊ヨリ書状来着。午後ヨリ雨

止ム山田二行。夜小倉来

三日晴明治節ニテ市中大ニ賑フ。午前松阪屋ニ行理髪シ午後西町觀世二行素人能アリ細田氏の景清ヲ看ル上出来ナリ。菊池次郎来骨董松井藤吉伴ヒ来ル今夜ハ十三夜ナレトモ朧月ナリ

四日晴午前関原二行。上山田ヨリ端書来ル。午後博文堂老人来

五日晴午前関原二行。午後一時ヨリ小石川源覚寺ニ行早川氏初七日法要アリ終テ築地八百善ニテ晚餐ヲ饗セラル

六日晴午前金子来。関原二行。午後二時ヨリ三野村ヨリ招待ニテ明子ト歌舞伎座ニ行忠臣蔵ノ通シト中幕菊五郎ノ鏡獅子トナリ。上山田ヨリ書状来。宇都宮ノ戸田慥爾ヨリ栗本ニ関シ書状来ル。

七日晴午前関原二行。午後松阪屋ニ買物ス

八日晴午前伊沢来今回石橋ニ退隱スル由ナリ。廉堂ヨリ書面上海ヨリ来ル杭州西湖辺へ一遊セシ由ニテ是ヨリ重慶ニ向テ長江ヲ遡ル予定ナリト云フ。大住嘉右エ門来。関原二行血圧右百五十四左百五十二

日九日曇午前藤沢進次郎来。斎藤幸鳩未亡人来。午前一時ヨリ渡辺華石ノ告別式ニ清水町ニ行山田二行

十日晴午前関原二行倶楽部ノ午餐会ニ出席ス午後区役所ニ行信用組合ノ臨時総会アリ帰途三越ニ立寄ル。上山田ヨリ明日午后六時上野着ノ

由通知シ来ル。夜東京駅ニ行山田老人ノ遺骨ヲ郷里岐阜ニ埋葬スル由ニテ若山田今夕九時四十五分発ニテ出発ノ由ニツキ之ヲ送ル

十一日晴午前関原二行。午後小倉来。上山田ヨリ帰京ノ連中午後六時十分上野着ノ由ニツキ迎ニ出向ク一同無事着青山ヨリモ迎ノ者来ル

十二日晴午前関原二行

十三日晴午前関原二行。午後五時ヨリ百尺ノ百話会ニ行

十四日晴午後関原へお糸モ行。浜口総理大臣今朝東京駅ニテ凶漢ノ為ニ腹部ヲピストルニテ狙撃セラレタリト云フ大学病院ニテ手術ヲ受ケ経

過良好ナリト云フ。午後五時ヨリ東京会館ニ行三輪善兵エ七女田中新七ノ長男ニ嫁し披露ノ宴アリ

十五日晴午前関原二行。日本橋倶楽部ノ午餐会ニ臨席ス。三千代俱行

ノ五才祝ニテ来ル 青山ノ妻子照雄ヲ連レテ来ル 祝ナリ

日十六日 晴 町田純子 秀春ヲツレテ来ル 祝ナリ

十七日 晴 関原二行。川島竹斎ノ画会ニテ梅川亭二行。酒巻氏来。夜駒込ノ草津ニ入浴ス。廉堂漢口ヨリ書面来

十八日 晴 午前小島来 沈石田画卷持参ス。午後神明町草津へ入浴ス。

十九日 晴 午前関原二行。午後お糸ト俱樂部二行 謡曲会アリ。四時ヨリ明治座二行 義士銘々伝ニテ山鹿送り 平右工門ノ鳩ノ場 両国橋 子葉無壳リ 松浦侯邸ノ場等ニテ吉右工門 勘弥等ノ出演ニテ歌舞〔伎〕座ト表裏ヲナシテ面白シ

二十日 晴 午前動阪草津ニ入浴ス。俱樂部午餐会ニ行 関原二廻ル

廿一日 晴 午前動阪草津ニ入浴ス。午後竹町事務所ニ行 加藤悌二二面会ス。浅草細野医師二行

廿二日 晴 午前九時ヨリ芝晚翠軒ニ鉄研〔硯〕先生書画展覧会ニ行 来会者多シ。午後細野二行。川村驥山 三浦英蘭 小島甫等来ル 書道会出品ノ事ナリ

日廿三日 晴 午前関原二行。

廿四日 晴 午後細野二行。森村竹軒来

廿五日 晴 午後関原二行 俱樂部午餐会ニ出席ス 午後謡曲会アリお糸来ル 帰途三越 松屋ニ廻ル〔欄外に鉛筆で「17」と記載する〕

廿六日 晴 朝四時半地震アリ。午後細野二行 今朝ノ地震ハ伊豆地方ニテ三島町 永岡 韭山 伊東 熱海 湯河原 箱根辺ハ非常ノ強震ニテ慘憺タル有様ナリト云フ

廿七日 晴 午前関原二行。十一時ヨリ地方才判所ニ行 堺町三番地ノ坂本金之助ノ借地権ノ事ニテ証人トシテナリ 加藤悌治弁護士同道ニテ彼是手間トリ午後三時過キ迄か、ル帰途細野二行

廿八日 晴 午前松坂屋ニテ理髪シ細野二行。博文堂老人来。午後研〔硯〕老人来。四時ヨリオ糸ト百尺ニ行 高木与兵工氏ノ七十ノ祝賀会ニテ親戚関係者三十余人来会ス

廿九日 晴 午前関原二行。午後五時ヨリオ糸ト東京会館ニ行 駒木銀三郎

関屋氏ノ娘ト結婚シ披露ノ宴アリ。中村長安来

日三十日 晴 午前上野ニ泰東書道院展覧会ヲ観ル 帰途山田ニ立寄り。

夜雨

十二月一日 晴 夜雨 夜高田きぬ来。吉野来。

二日 曇 午前関原二行。夜小倉来。

三日 晴 午前博文堂老人来。関原二行。午後四時ヨリ細野二行キ「プロチノン」ノ注射ヲ受ク。亀清探シ行 三輪氏ニ招カレ俱樂部ノ役員連ニテ相談アリ

四日 晴 朝正太郎来 ブラジルニ送金頼ム。駒木ノ新婦来。午後お糸ト書道会ヲ観ル。細野二行

五日 曇 夜雨 午前関原二行。俱樂部午餐会ニ行 谷孫六ノ川柳ニ関スル慢談アリ。細野二行。夜吉野来。

六日 雨 寒冷。午後四時ヨリ細野二行。俱樂部二行 役員会アリ

日七日 晴 表具師富田来。木口尚友堂来。午後山田二行

八日 晴 お糸五反田二行。午後細野二行

九日 曇 午後細野二行。廉堂ノ書状漢口ヨリ来ル

十日 晴 午前文墨洞ヲ訪フ 関原二行。廉堂ヨリ電報上海ヨリ来ル 十四日 同地出帆ノ由ナリ。午前原田来 明日鉄硯老ノ招キニテ中華第一楼へ会合ノ由通知シ来ル

十一日 曇 雨 中華第一楼ニ行 鉄研〔硯〕老ノ招待ニテ犬養木堂 山本二峯 内藤湖南 滑川達 博文堂 林文昭等ニテ一夕ノ清談盛興多シ。木口来

十二日 晴 午前博文堂老人来 羊石遺墨展墨〔覽〕会ニ付キ相談アリ。午後山田二行。五時ヨリ帝国ホテルニ行 細田氏ノ四女後藤長左工門ニ嫁シ結婚披露ノ宴アリ

十三日 晴 午前お糸ト関原二行。午後細野二行

日十四日 曇 午後博文堂来。四時ヨリ五条天神社ニ行 三味会例会ト義士会ヲ兼ねタレバ 来会者多シ

十五日 晴 昨年発病ノ記念日トナリ又幸ニ一ヶ年間ノ養生ニテ先全快シテ今日アルハ幸福ト云フベシ 関原二行 俱樂部ノ午餐会ニ行 一同ヨリ昨年

ノ談出テ目出度シト祝ハル。山田二行。数キ屋橋ノ三柏ビル二行

十六日 晴 午後肴町銀行ヨリ文求堂二行

十七日 晴 午後博文堂来。木口尚友堂来 正太郎来 栗本義精来リ面会ヲ強請ス断然謝絶ス 数時間帰ラズ 夜ニ入ル 木口等大ニ心配シ種々注告アリ 因てお糸ト天神下成田屋二行一泊ス 後木口来リ 正太郎連レ出シタリト云フ 夜深 正太郎来 漸ク連レ出シ 他ニテ晚餐シ種々熟談シテ他日ハ正太郎ニ從テ対談ノコトトセリト云フ

十八日 晴 午前帰宅ス。午後廉堂帰宅ス種々支那談アリ。高田絹来。日坂小倉来

十九日 晴 午前関原二行。午後清水芳園来

二十日 晴 倶楽部午餐会ニ出席ス今村博士ノ地震ニ関スル講演アリ

日二十一日 曇 午前三野村兩人来。午後小倉来 清水ヨリ大理石像送り来ル

二十二日 曇 午前関原二行

二十三日 晴 午前関原二行。午後大橋祖母懷之大姉〔貞藤懷光大姉、卷子〕五十年忌ニテ天王寺二行 法要アリ 夜池ノ端翠松園ニテ晚餐ス。小倉児玉等来

二十四日 晴 午前関原二行。午後酒巻来

二十五日 晴 清水芳園来。午後春日井助三郎来 一泊ス〔欄外に「大正天皇祭」と記載する〕

二十六日 晴 午前山田二行 春日井同行ス。午後春日井婦名ス。午後五時ヨリ浜町野波二行 信用組合ノ忘年会アリ

二十七日 晴 午前中山季丸来。午後芝増上寺二行 星野錫夫人ノ告別式アリ。五時ヨリオ糸ト倶楽部二行忘年会アリ 余興ニ落語 常磐津 日本橋レビユ一等アリ

日二十八日 晴 午前共立ノ松井来。木口尚友堂来。午後お糸ト竹町大橋ニ歳暮二行 松阪やを廻ル。夜関原来 お糸風邪ニテ臥ス

廿九日 雨 午前関原二行

三十日 晴 午前大住精一郎来。木口尚友堂来。菊屋来挿花ス。

三十一日 晴 午前関原二行。夜小倉来。

昭和六年一月一日 曇 寒気強ケレトモ穩カナリ 昨年ハ病中ニテ辛フジテ年ヲ迎フル有様ナリシニ今年ハ先無事ニ迎年トハ幸福ト云フベシ。晚方ヨリ降雪トナル

二日 晴 白雪皚々ト積リタレトモ天氣晴レタリ。清水芳園来賀。午後高田一同来

三日 晴 久吉来賀。お糸ト天龍院ニ墓參シ 山田ニ立寄ル。慈徳院〔慈徳院円通貞威大姉、威子〕様ニ神主を祭ル。青山夫婦来

日四日 晴 午前関原二行。

五日 晴 倶楽部新年会ニ出席ス。細野二行

六日 曇 午後木口来。黄鍊氏十二月廿九日死去「之」由ニツキ之を吊ス

七日 曇 午前関原二行 倶楽部二行 日本橋区名誉職新年会アリ。午後大住来。高木光教同与八郎来。

八日 雪 昨夜ヨリ降雪。午後お糸ト歌舞伎座二行 愛国婦人会幹事連ノ催シニ参加セリ 狂言ハ忠臣蔵 山科閑居 天川屋 清水一角等ナリ

九日 曇 猶雪模様ナリ

十日 曇 午前共立ノ松井来。関原二行

日十一日 晴 寒 午後松坂屋二行

十二日 晴 寒 午後二時ヨリ日本橋区役所二行 信用組合会アリ了テ草津亭ニテ祝宴アリ

十三日 晴 関原二行。夜百話会二行

十四日 晴 午後お糸ト中村町田 青山 菊池 三野村ニ拜年ス。夜五条天神社ノ三味会二行

十五日 晴 午前関原二行 倶楽部ノ午餐会ニ出席ス 帰途細野ニ廻ル。三野村来。夜磯部羽州来

十六日 曇 午後山田二行

十七日 晴 午後お糸ト天王寺ニ墓參シ 細野ニ廻ル

日十八日 晴 午後神田ニ散歩 本海堂ヲ訪フ 病臥せり

十九日 晴

二十日晴 倶楽部午餐会二行。午後お糸ト大橋二行

廿一日晴 午前お糸ト大住二行 午後区役所ニ信用組合役員会アリ

廿二日晴 午前慧一郎上京ス。南波礼吉夫人ノ告別式ニ青山祭場二行。

松居□一郎来。午後山田二行

廿三日晴 午前土方氏二行 同人娘此□青嶋ニテ死去セシ由ナリ

廿四日晴 午後二時ヨリ久々ニテ同根会ヲ復興ス 青山夫婦 三野村夫婦 菊池次郎 高木光教 同与八郎等ヲ初メ三十余人来会 各々長唄一中節等ノ演芸アリテ非常ノ欲ヲ尽シ 夜ニ入テ清水芳園臨時ニ来リ 為ニ一層ノ興ヲ催シ 天氣モ温暖ニテ幸福ナリキ 十時過キ会散会ス

日廿五日晴 慧婦西ス。西沢善七氏ノ夫人ノ告別式ニ浅草本願寺二行。倶楽部午餐会二行。清水芳園来

廿六日晴 曇 午前博文堂老人来。山内氏来。竹内来。午後お糸ト天龍院ニ墓参ス。山田二行。中山来。

廿七日曇風

廿八日晴 午前関原二行。午後区役所ニ行 信用組合総会アリ

廿九日晴 午前森村氏来、午後倶楽部行 謡曲アリ

三十日晴 午前竹内来。千住回向院来。中村長安来。今泉也軒翁廿八日ニ死去「之」由新聞紙ニ在リ 八十三才ノ高齢ナレトモ惜ムベシ。午後細野二行。倶楽部二行高田正一 三浦鼎ト会合シ大崎高田ノ事ニツキ相談ス

卅一日曇 午前金子来 正太郎来。午後中根岸今泉氏告別式ニ臨席ス。お絹小太郎来リ将来ノ事ニツキ独立自活ノ方法ヲ立ツベキコトヲ話ス

日二月一日曇 雨 午後お糸ト觀世会能楽ニ「ヲ」觀ル 鉄之丞 弱法師 左近 熊野等アリ。土方氏娘 難波氏ノ告別式ニ青山祭場二行

二日晴 午前松阪やヨリ山田二行。急ニ暖氣ニナル。石原ノお升サンノ七年忌ニテお糸天龍院二行

三日曇 午後吉野来。関原来。

四日曇 節分ナリ。午後青山夫妻来 湯河原ニ同行約ス

五日晴 雨 倶楽部午餐会ニ臨席ス。夜雨雪トナル

六日雪 湯河原ニ避寒セント 午前九時東京駅発車ス 青山兩人介二郎同

行ス 雪大磯辺ヨリ雨トナリ 十一時湯河原駅着 自動車ニテ富士屋旅館ニ投ス 奥マリタル別棟ノ楼ニ入ル 来客少ナリ 静ナレトモ庭前ノ泉声喧ビスシ 七日晴 天漸ク晴ル。午前運動 不動ノ滝ヨリ広河原ノ至ル 先年来リシ時ヨリ大ニ開ケタルコト「二」驚ク

日八日晴 寒氣強シ。散歩ス。午後介二郎帰京ス。吉野来訪。正太郎ヨリ書状来リ 栗本義精態度一変シ 何トカ解決ツキ相ニナリタリト云フ

九日晴 午前散歩 不動滝ニ至ル 頓狂庵ニ憩フ。駒木銀三郎ヨリ書面ニテ廿一日法事ノ通知来。午後大倉公園ニ散歩ス

十日雪 夜来降雪 白皚々当地稀ナル大雪ナリト云フ 積ムコト五六寸 此暖地ニ来リ此降雪ヲ觀ル 奇ト云フベシ。終日雪 次郎来ル 筈ナリシガ雪ニテヤメニナル。古池年三来

十一日晴 雪霽。天氣晴朗ナラズ 残雪泥濘 外出ヲ得ズ 終日鬱陶シ。杉溪六橋 中村長安ヨリノ書状来。正太郎来訪 午後帰京ス「欄外に「紀元節」と記載する」

十二日晴 午前散歩ス 泥濘滑□ナリ。次郎ヨリ葉書来

十三日晴 午前散歩ス。久吉来 謡曲数番 一泊ス。午後雨降り出テ雪モ交ル 東京ハ雪ナリト云フ

十四日曇 時々小雨。午後一時五十分発ニテ久吉帰京ス 雨喝「歎」ナレバ送テ湯河原駅迄行 一時間程浜辺迄散歩ス 三時五十分着ニテ双二郎夫婦子供ヲ連レテ来ル 共「二」自動車ニテ帰寓

日十五日晴 午前散歩 大師堂ニ上ル。午後散歩 清香園ニ至ル。双二郎帰京ス。小島甫来ル 懷素ノ苦筍帖ヲ持参ス 珍品ナリ 其外房ノ山「房山」ノ山水卷 藍田叔八大山人卷 皆名品ナリ 伊豆山ニ泊ストテ帰ル

十六日晴 雨 午前介二郎 明子 礼子を連レテ来ル。午後孝三帰京ス 又雨降り出ス。夜礼子腹痛ヲ呼ブ

十七日晴 夜小雨 午後散歩 桜山ニ上ル。又散歩 百花園ニ到ル

十八日晴 午後散歩 頓狂庵ニ低ル 觀音山ニ登ル

十九日晴 愈本日帰京セント仕度ス。午後一同自動車ニテ発足 停車場ニ至ル 三時五十七分發テ乗車ス 平塚辺ヨリ以東 路上残雪猶多シ 六時東

京駅着自動車ニテ帰宅ス庭上残雪皚々タリ

二十日晴午前山田二行宇都宮政市ニ遇フ。午後木口尚友堂来。小島来。金子来。夜高田絹子来。関原来。勅使河原老人去十五日大阪ニテ死去セリト云フ

廿一日曇駒木ノ法事ニテ午後二時ヨリ赤阪盛徳寺ニ行読経法会ノ後一同明治座ニ招待サル之ヲ見物ス吉右エ門中車一座ニテ伊賀越と遍三〔参〕狂言ナリ

日廿二日雪朝ヨリ小雪降り出ス。午前博文堂来。小島来。午後関原来。お糸ト西町観世ニ行素人能楽アリ猪田氏ノ鉄輪細田氏ノ鞍馬天狗其外囃子独吟等数番アリ。春日井兩人上京来泊ス

廿三日曇白雪皚々タリ今年ハ実ニ数回ノ降雪珍ラシキコトナリ。

廿四日曇午後山田二行

廿五日晴倶楽部ノ午餐会ニ行。木口来。関原来

廿六日晴午前三千代来豊ノ事ニツキ相談アリ。青山夫妻来。午後松坂屋ニ行。春日井兩人ヲ翠松園ニテ晚餐ヲ饗ス廉堂御縝御絹小倉同伴ス

廿七日晴午前松本氏共立株ノ事ニテ来ル。午後一時東京駅発ニテ春日井兩人帰名ス。上野銀行迄行

廿八日小雪小雨午後散歩三柏ビルニ至リ長安ヲ訪フ。午前木口尚友堂来

日三月一日晴風午後お糸ト観世会能楽ヲ観ル東北「喜之」弦上「左近」等アリ

二日晴午前本郷肴町銀行ニ行。午後原田博文堂木口尚友堂来り廉堂画会ニつき相談ス中村長安来ル。

三日晴午後天龍院ニ墓参ス倶楽部ニ行鉄之丞来帰途山田ニ立寄ル。木口来

四日雨午前近藤来。午後関原来

五日晴倶楽部午餐会ニ行伊藤癡遊ノ談話アリ帰途細野ニ立寄ル。

六日晴午前山田二行ク少々風邪ノ気味ニテ咽喉痛ム午後ヨリ臥床ス
発熱ス

七日晴風発熱七度四分夜八度二分ニ上ル。午後山田氏ニ来診ヲ請フ。お糸高田二行相談アリ

日八日晴午前向野医師来診流行感冒ナリト云フ。午後三守来。夜山田来診発熱八度二分

九日晴午前大ニ下熱ス。金子来。森邨老人来

十日晴午後向野氏来診。午後清水芳園来。福井ニテ十竹会アリ介二郎ヲ代理ニ遣ハス。浜口首相遭難後初メテ本日議院ニ出席スト云フ。

十一日晴午後青山夫婦見舞ニ来ル。高田絹子来。夜中村長安来。小倉来。

十二日晴森邨老人来。午前博文堂来。午後小島来。

十三日晴漸ク離床ス。午前お糸ト山田二行。百話会ニ代理トシテ介二郎ヲ出席サス。

七日ニ御出産アラセラレタル内親王ニ厚子順宮ノ御命名アラセラレタリト云フ。

十四日晴風森村老人来。木口来。午後松坂やヨリ細野ニ行。分奪紛失ス

日十五日晴倶楽部午餐会ニ行。博文堂来。

十六日晴午後木口来。光畑十七帖ヲ持参シ来ル

十七日晴午前本郷銀行ヨリ黒門町銀行ニ廻ル。午後光畑来。小園氏来。

十八日晴風午前揮毫ス。午後山田二行

十九日晴午後六時ヨリ日本橋末広ニ第十四区画整理委員ノ記念会豊美会ニ出席ス

二十日雨晴午後中村来。新橋演舞場ニ行吉右〔エ〕門一座「源平布引滝」ノ実盛法海坊等ナリ

二十一日晴午後東新吾石塚某ト来り義士ノ遺物持参ス

日二十二日晴午後小笠原衛来。お糸ト明治座ニ行訥子等ノ若手連中

ニテ「人狼」「廿四孝」等アリ

二十三日晴午後木口来。木内来。小島来

二十四日晴風午後小倉来。

二十五日晴 午前閑原二行。俱樂部午餐會二行

二十六日晴 午後お糸ト大住氏二行 長安ノ婚約ヲ祝ス

二十七日晴 午前金子来 栗本義雄ノ事ニツキ相談ス 午後五時ヨリ自笑庵二行 廉堂画會ニツキ相談ス 本山水口 中村 博文堂等来會ス

二十八日晴 午前三野村ニテ女子生産セシ由電話アリ。午後お糸 三野村二行。小倉来。博文堂来。中村来。夜廉堂友人仏国人某来泊ス

日廿九日晴 清水芳園来話。午後次郎来 大醉一泊ス

三十日晴 午後三野村二行

三十一日晴 午前博文堂老人来。午後小島来

四月一日 雨風

二日晴 成田山不動尊ニ參詣セント 午前八時お糸 正太郎ト日暮里ヨリ汽車ニテ成田ニ向フ 天氣良好トナリ 春色処々ニタ、ヨウ九時過着直チニ不動堂ニ參詣護摩ヲ修メ 十二時前ノ茶店ニテ午餐ヲ認メ 京成電車ニテ帰途ニツキ押上駅ヨリ自動車ニテ帰宅 一時三十分ナリ。清水芳園来

三日晴 神武天皇祭ナリ。午後青山相川氏二行 大住氏ト「丁」之「事」ニツキ相談ス。町田実秀 純子 秀春ヲ伴レテ来ル。

四日晴

日五日晴 午後清水芳園来。早川佐七来話。夜高田小太郎来。

六日晴 午前孝三夫婦来。博文堂近藤来

七日晴

八日晴 山田二行

九日晴 鳥海氏ノ案内ニテ岐阜ニ一遊スルコトナリ お糸小倉ヲ伴レテ午前十時東京駅ヨリ発ス 青山夫婦 高木光教等送り来ル 沿道桜花処々盛りナリ 富岳毛晴天ニ白玲瓏タリ 午後五時三十七分 岐阜ニ着ス 鳥見氏迎ヒニ来リ居ル 長良橋畔銚秀館投宿ス 南ニ長良川ヲ隔テ、金華山ニ対シ風景嵐山ニ似テ清絶ナリ 明日ヨリ後藤別荘ヲ借用ノ予定ナリ。伊藤氏ニ逢フ

十日晴 午前市街ヲ散歩シ大垣共立銀行ニ立寄り取引ヲ開始ス。相宮氏 安藤氏来ル

十一日晴 雨 午前橋畔ヨリ電車ニテ高岡ニ向フ 大龍寺ニ詣フズ 住持不

在ニテ院代ニ逢フ 山田不老々人ノ菩提所ナリ 山中ノ古寺ニテ幽境ノ清境ナリ 老人ノ墓參ス 帰途三田洞ノ法華寺ト云フ 弘法大師ノ堂ニ參詣ス 是亦出邃ノ佳域ナリ 小雨降り来ル 十二時長良ニ帰ル。午後ヨリ後藤別荘ニ移

ル 後藤織物會社社長 後藤恕作氏ノ旧宅ニテ宏状ナリ（ル）建物ナリ 粧飾美ヲ尽ス 然レトモ久敷住セザリシ故不便多シ

日 十二日晴 木曾川ノ日本ラインノ後藤別荘ヲ一覽セント 午前十一時ヨリ自動車ニテ発ス 我等一行ト鳥見 安藤氏 相宮氏先導トナリ 住吉町ノ商務所支店ニ立寄り 飛驒海（街）道ヲ加納 那加ヲ經テ各務カ原飛行場ヲ通りテ 犬山橋ニ出で 犬山城下彩雲閣ニテ午餐ヲトリ 又橋ヲ戻リ上ル事数丁ニテ別荘ニ達ス 是又壯麗ニテ目ヲ驚カス 乍併未完ノ処多シ 此日 犬山公園觀樓ノ客雜沓シ「ライン」ニ遊船多ク泛ベリ 頂度名古屋ヨリ春日井一行来リ會ス 暫時見物ノ上 帰途ニツキ四時長良へ帰ル

十三日晴 雨 午前鳥海来。住之江町ノ商務所事務所ニ行 午後小倉名古屋ニ行 深夜二時ニ帰ル

十四日晴 午前鳥海来。事務所ニ行。十六日大住氏ノ婚儀ニ會スル為メ 帰京ノ途ニ上ル 午後零時三十七分發ニ乗車 八時東京駅ニ着ク

十五日晴 午前博文堂老人来。午後山田二行

十六日晴 午前森村夫人来。午後小島来。五時ヨリ帝国ホテルニ大住氏婚儀披露ノ宴ニ會ス 新良（郎）ハ鈴木惣一郎トテ本町ノ医科器械商ナリト云フ

十七日晴

十八日晴 再ビ岐阜ニ赴カント 午前十時東京駅發車 午後五時三十七分 岐阜駅ニ着ス 住之江町ノ商務所ニ立寄 鳥海氏豊橋へ行キタリトテ不在ナリ 後藤別荘ニ着ス

日 十九日晴 京都へ端書出ス。市街ヲ散歩ス。午後鳥海氏 相宮氏ト共ニ来ル。金華山下公園ニ散歩ス

二十日晴 午前共立銀行二行。午後鳥海氏来。名古屋ニ一遊セント 午後五時三十七分發ニテ發足 直チニ着 春日井ニ行 晚餐後十時發車ニテ帰寓

十八日田辺碧堂翁肺炎ニテ逝去「之」由新聞紙上ニ掲載アリ 驚イテ直チ

二吊詞出ス介二郎 中村長安へも書面出ス

廿一日曇雨午前揮毫。午後小倉ト商務所ニ行 犬山行ノ電車ニテ手力ト云フ処ニ行 伊藤織喜店ニテ絵絹ヲ求メ手力雄神社ニ参詣シテ帰ル 雨トナル

廿二日晴午後小倉ト伊奈波神社ニ参詣ス

廿三日晴 京都ニ行カント午前八時四十四分ニテ発車ス 小倉ハ同三十三分東行でテ帰京ス 十一時二十二分京都着 直チニ三本木ニ行 慧京大龍谷大共ニヤメタリト云フ 午後寺町辺ヲ散歩ス

廿四日雨午前御所外苑ヲ散歩ス。午後二条寺町辺ニ行 利子病氣ニテ臥ル 病症ハ不明ナリト云フ。

廿五日晴 岐阜ニ戻ラント午後一時二十分ニテ発車 四時五十分岐阜ニ帰ル 事務所ニ立寄り鳥海氏ニ値フ

日 廿六日 晴雨午前伊藤氏来。中村長安及廉堂ヨリ書状来。正太郎ヨリ書状来。午後鏡島ノ弘法大師ヨリ北方ノ円鏡寺 弘法大師ノ開帳ニ参詣ス。商務所ニ立寄ル 鳥海氏ニ逢ヒ明日一端帰京スルコトニ決ス。夜腹痛ス。雨降り出ス

廿七日晴曇午前十時二十分発ノ特急ニ乗車ス 午後四時五十五分東京駅着 山田氏ニ廻リテ帰ル

廿八日晴風午前原田博文堂来。関原来。

廿九日雨午前宇都宮政市ヲ訪フ。山田ニ行。午後関原来。木口尚友堂来。(欄外に「天長節」と記載する)

三十日曇午後廉堂ト新井洞巖ヲ訪フ

五月一日晴午前上野梅川ニ三味会ニ出席ス

二日晴午後三味会ニ出席ス。日華絵画展覧会ヲ観ル。山田ニ行。鳥海氏来。夜清源亭ニ三味会同人ト也軒先生ノ追善会ヲ開ク

日 三日晴午前三味会ニ出席ス 夜慰労会ヲ開ク

四日晴午前中村長安来。午後神田ニ散策ス。春日井上京

五日晴午前中村長安来。午後歌舞伎座ニ行 春日井一行ト

六日晴午後小倉来。

七日晴 春日井育子縁談見合ニテ華族会館ニ行 先方ハ貴族院議員男爵平野長祥ニテ 同息長堯 仲人名和長憲等来会ニ見ノ上午餐ヲ共ニ(シ)テ縁談決定ス。大掃除ナリ。博文堂来。

八日晴 午前廉堂 博文堂ト木堂翁ヲ訪フ 王蹟ヲ示ス。木口方ニ行。午後春日井一同来。廉堂画会ノ準備ヲ看ルニツキ芝ノ美術倶楽部ヘ行。鳥海氏来ル 今晩岐阜へ帰ルト云フ 余ハ十一日ニ行クベキコトヲ約ス

九日雨 廉堂入蜀画会ヲ東京美術倶楽部ニ開催ス 来観者親戚故旧ヨリ其他多数来会ス 午後帰途山田ニ立寄ル

日 十日晴 廉堂画会ニ行 犬養木堂 杉溪六橋 榊原鏡研(硯) 老来観 帰途清水芳園ニ招カレテ住吉町和歌浦ニテ晚餐ス。画会成績良好ニテ総数七十七幅ノ内僅二十幅ヲ余スノミナリシト云フ

十一日雨 午前中村長安 小島甫来。今日岐阜ニ赴カント 小倉ヲ伴ナヒ 午後一時東京駅ヲ特急ニテ発ス 終日雨 午後七時半岐阜着 長良川後藤別荘ニ着ス 今夜鮎漁解禁ニテ初鵜飼アリ 九時頃ヨリ上流ヨリ漁船篝火ヲ焼キテ列ヲ成シテ六艘下リ来ル 美観ナリ 鵜ハ一艘ニ十二匹ツ、ニテ水中ニ入りテ活動ス之ヲ鵜匠工ニアヤツリテ鮎ヲ探ル之ヲ楼前ニ観ル 音観ト云フ ベシヤガテ下流長良橋位ニテヤム。鳥海氏 伊藤氏来話

十二日雨 午前事務所ニ行 取引ヲ開始ス。午後四時頃長良へ帰ル 終日雨ナリシガ晩方ヨリ晴レル。ブラジルヨリ豊 学校都合ヨリ行キシ由通知アリタリト東京ヨリ電報来ル。東京へ端書出ス

十三日晴 午前三田洞ノ大師堂ニ参詣シテ事務所ヘ行 取引(渉)トラズ 午後五時帰寓

十四日晴 午前揮毫。夜伊藤来

十五日晴 午前長良橋ヨリ西数丁ニ神護山崇福寺ト云ヘル禅師ニ参詣ス 後苑ニ信長公ノ墳墓并ル(ヒ) 厩(廟)アリ 本能寺ノ変ニ室お鍋ノ方首級ヲ此地ニ届ケタリト云フ。事務所ニ行 午後大垣ニ一遊セント 自動車ニテ発ス 鏡島ヨリ長良川合(河) 渡橋ヲ過キ 揖斐川鉄橋ヲ過キテ大垣ニ入ル 恰モ八幡社ノ春祭ニテ市中雑沓ス 八幡社 招魂社ニ参詣シ 市中ヲ一覽シテ帰ル 夜強風トナリ後剛(豪) 雨トナル

十六日晴 夜来ノ風雨 曉色ト共ニ霽レタリ。午後市中ヨリ商務所ニ行。東京ヨリお糸明日来ル由通知アリ

日十七日晴 午前安藤氏来ル 共ニ金華山ニ登ル 裏山道ヨリ頂上へ達ス 織田氏ノ城趾其外種々ニ古蹟アリ 模擬城楼ニ上ル 尾濃ノ平野一望ニ収マリ 景勝ノ地ナリ 茶店ニ一憩ノ後 表山路ヨリ下山ス 往復三時間ヲ費ヤス。お糸ヲ出向ヒニ五時四十五分停車場ニ赴ク 梅ヤヲ供トシテ来ル お絹名古屋迄来リタリト云フ。夜伊藤氏来話

十八日晴 午前島海 伊藤両氏来。春日井ノ新築上棟式ニ招カレ名古屋ニ赴ク 午後一時ヨリ千艸ノ新邸ニ行 壮大ナル設計ナリ 酒巻氏主祭トナリ 壯嚴ナル上棟祭式執行サル 余ハ来賓総代トシテ祝辞ヲ読ム 四時過キ終了 岐阜ニ帰ル 高田絹子 道子同行ス。鵜飼御獵ノ為メ十一隻出タス

十九日晴 午前揮毫ス。夜伊藤氏来。

二十日晴 午前お糸ト名古屋ニ行 春日井老人ノ三周年忌カ法会速夜ニテ親戚等来会ス。お絹等ハ谷汲ヨリ養老ニ行。名古屋ニ泊ス

廿一日晴 夜雨 午前九時ヨリ極楽寺ニ行 法会執行例ノ如シ 午餐ヲ出サ ル。午後愛知銀行ニ立寄り 青木英作ニ面会 東海旧重役 旧友会ヲ長良鵜飼ニスルコトヲ相談ス。白石四郎来リ面会ス。午後五時二十四分發ニテ岐阜ニ帰ル 雨トナル

廿二日 雨 終日降雨ニテ陰鬱ナリ。午後相宮氏来話。夜青山孝三夫婦来岐。薄暮ヨリ雨歇ム

廿三日晴 午前島海 伊藤来話。午後一同ト崇福寺ヨリ公園 伊奈波神社等ヲ見物ス

日廿四日晴 今日春日井一同来ル由ニツキ宿ノ事ニテ長良館ニ行相談ス。午後春日井夫婦 育子 和子等来ル。夜長良川ニ小舟ヲ泛ベ鵜飼獵ヲ見ル

廿五日晴 谷汲ノ観音 養老ノ滝へ一覽セント 春日井一行ト共ニ二台ノ自動車ニテ午前九時出發 西北ニ向ヒ 黒野 西郷 山麓 長瀬等ノ諸村ヲ過ギ 一時間余ニテ谷汲ニ達ス 当観音ハ西国三十三ヶ所観音ノ最終番 三十三番ノ靈地ナリ 石階数十ヲ上リ堂アリ参詣ス 裏ニ笈（マ）堂アリ 西国巡礼ノ（マ）摺ヲ最終ノ此地ニ収ムル処ニテ数千枚程重ネアリ 堂後ニ小瀑

アリ妙法ヶ滝ト云フ 又自動車ニ乗り揖斐 神戸 大垣 小畑 高田等ヲ過キテ 養老ニ至ル 千歳館ニ投シテ午餐シ 溪ニ沿テより養老瀑ヲ見ル 大瀑ニハアラザレ共姿ノヨキ滝ニテ新緑那中ヨリ落下 壮快ナリ 山中桜樹楓樹多ケレバ春秋ノ佳景サユカト想ハル 山中ニ星巖翁ノ詩碑 又昨年中山□賢翁ノ建テル（一字アキ）南園老人ノ詩碑等ヲ観 養老神社ニ詣シ 菊水ノ古蹟ヲ観テ山ヲ下ル 四時半ナリ 大垣ヲ経テ岐阜ニ帰ル 薄暮ナリ。夜春日井一行名古屋へ帰ル

廿六日晴 午前青山夫婦京都へ行 午後柳ヶ瀬ヨリ電車ニテ美濃町ニ行 小倉公園ヲ觀ル 旧金森氏ノ城趾ニテ代官所トナルト云フ 村瀬藤城 秋水兄弟ノ故郷ニテ建碑等アリ 長良川上流ニ臨ミ 風景佳絶ナリ 薄暮帰ル 留守中青木氏名古屋ヨリ来リシ由ナリ。博文堂ヨリ電報ニテ湖南先生ヲ廿八日訪問ナスベシト云ヒ来ル 因テ明日京都へ行コトトナス。久吉来

廿七日晴 午前八時四十五分發ニテ京都ニ行 小倉ヲ供トス 十一時過京 都着直子ニ三本木ニ行 博文堂老人来明日ノ打合せヲナス

廿八日晴 午前十一時奈良行ニテ博文堂 慧一郎ト発シ 木律ニテ乗換ヘ加茂ニテ下車 十余丁ニテ湖南先生山莊ヲ訪フ 十七帖ノ件ニテ種々意見ヲ聴ク 四時ニ辞シテ 加茂ヨリ木津ニ戻リ 祝園ニテ電車ニ乗換ヘ京都へ帰ル 子供等ヲ伴ナフテ 六時四十五分京都發ニテ岐阜ニ帰ル 雷雨アリ。大橋微笑 先生来。廉堂来

附記

本稿の執筆に際し、菊池隆村氏より本日記のご提供を受けた（本日記の無断複製・加工を禁ず）。記して御礼申し上げたい。本稿は二〇一八（平成三〇）年度特定研究費A「中国書画碑帖の日本流入に関する研究―収蔵家・菊池惺堂を起点として」（相模女子大学）の成果の一部である。

Kikuchi Seidou (菊池惺堂)'s diary vol.3 (1930.4-1931.5)

Shohei SHIMODA

This is a reprint of Kikuchi Seidou (菊池惺堂)'s diary with their explanatory note. Kikuchi Seidou (1867-1935) was a businessman, politician, and a collector of old Chinese calligraphy works, pictures, books, and beities (碑帖). He is also famous as the one who painted traditional Chinese style paintings (南画).

On September 11, 2018, I called on Mr. Kikuchi Takamura (菊池隆村), who is a Seidou's grandson, as a research study. I happened to find from his bookshelf four volumes of his diaries, which were written from November 1, 1927 till October 26, 1932. I've decided to name them "Kikuchi Seidou's diary" for convenience, as they have no names, as yet. I'm sure that these diaries are of great value in the academic field of modern Japanese and old Chinese calligraphy, paintings and beities, in addition to the study of Japanese city administrations, economic and cultural history of Japan.

This time I took up only the volume 3. In publishing this paper, I got the permission and cooperation from Mr. Kikuchi Takamura. In conclusion I'd like to express my gratitude to him from the bottom of my heart.

Keywords : Kikuchi Seidou (菊池惺堂), collector, diary, old Chinese calligraphy and picture, beitie (碑帖)